

2016(平成 28)年度 自己点検・評価の概要

(1) 授業評価

授業評価に関しましては各期に実施する全校生徒による授業評価アンケートをもとに評価しました。下表の表-1 は評価の内容であります授業時間の厳守と授業内容の理解についてそれぞれ数値化し加え平均したもので「総合点」として表したものであります。

表-1 期と全教科の総合点平均

期	総合点平均	変化
25 前期	90	-
25 後期	88	▼2
26 前期	88	-
26 後期	88	-
27 前期	86	▼2
27 後期	85	▼1
28 前期	86	△1
28 後期	87	△1

表-2 総合点と科目数

期	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未満
25 前期	63	7	1	0
25 後期	62	7	3	0
26 前期	66	4	0	0
26 後期	63	9	0	0
27 前期	64	6	0	0
27 後期	63	8	1	0
28 前期	63	7	1	0
28 後期	68	4	1	0

表-1 より 28 年度は前・後期ともにわずかですが総合点平均が前年度より上向きました。つぎに表-2 はそれぞれの科目が得た総合点がどの範囲かを示したものであります。28 年度は総合点 80 点以上の科目が平均で 65 科目(全科目の 87%)となりました。また、後期が前期を上回ったのは 4 年振りであります。

表-3 学年クラスごとの年間総合点(数値目標 90 点) 平均

クラス(A:工学科、B:デザイン科)	1A	2A	3A	4A	1B 合同	2B
年間(前・後期)総合点平均	87	87	89	91	86	82

表-3 より全クラスの年間総合点の平均は 87 点となり、前年度をわずかに上回りました。細部で分析検討しますと評価内容の一つであります「授業時間の厳守」に関しましては数値目標(95 点)を達成しました。他方、「授業内容の理解」については 79 点(数値目標 85 点)でありました。したがって、先生方には「授業内容の理解」に対しまして次年度も引き続き「分かる授業」への取り組みをお願いいたします。

表-4 今年度の出席状況と次年度予想(2017 年 2 月 14 日)

クラス	2016(平成 28)年度の状況	2017(平成 29)年度の予想
4A	特定の出席不良者がいる。出席不良者数は増加傾向	卒業
3A	出席不良者数は増加傾向	(新 4A)特定の出席不良者がいる
2A	退学者が 5 人出ている。出席不良者数は増加傾向。最も出席不良者数の割合が高いクラス	(新 3A)欠席者数が多いクラス
1A	退学者が 5 人出ている。最も欠席率が高いクラス。後期、ほぼ全欠席の生徒がいる。出席不良者数は減少傾向	(新 2A)欠席者数が多いクラス。特定の出席不良者がいる
2B	退学者が 1 人出ている。最も遅刻率が高いクラス。出席不良者数は増加傾向	卒業
1B	1 組:退学者が 2 人出ている。全クラスで最も出席率が良い。出席不良者数は増加傾向により出席状況に差が出た。 2 組:退学者が 5 人出ている。後期、ほぼ全欠席の生徒が	(新 2B) 1 組:特定の出席不良者がいる 2 組:欠席者数が多いクラス。特定の出席不良者がいる

	いる	
まとめ	各クラスに多からず何等かの理由で出席不良者は発生する。発生した時点で担任や科目担当者が学びの目的を確認させ授業出席の重要性を気付かせる	

(2) 退学者状況

表-5 過去 11 年間の退学者の推移 表-6 2016 (平成 28)年度クラス別の退学者数 (2017/8/5 現在)

年度	退学者計	在籍数	退学率 (%)
H18	18	158	11.4
H19	19	153	12.4
H20	11	145	7.6
H21	8	103	7.8
H22	9	102	8.8
H23	9	102	8.8
H24	3	91	3.3
H25	7	80	8.8
H26	11	115	9.6
H27	21	165	12.7
H28	24	228	10.5

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H28	2	0	1	5	1	3	3	0	3	0	1	5	24
1A					1	1	2		1				5
2A	1		1	2		1						4	9
3A												1	1
4A													0
1B	1			3		1			2		1		8
2B							1						1

年度の退学者数は3月の進級判定会議結果による留年者の動向で、最終的には次年度4月の会議にて決定します。例年、留年により退学者が数名出ておりますので、今後、退学者数は増加する可能性があります。

表-5より、今年度は既に19人が退学しています。また、表-6にクラス別の退学者数を示しました。

入学者の退学者数は両学科合わせて13人(うち留年1人含む)です。主な退学理由は就職、進路変更、健康上の理由が挙げられます。退学者の共通の傾向は高等学校時代の欠席日数が多い、または通学が身につけていない、高等学校時の教科の評定が低いことなどです。このことは本校の時間割に対応できず欠席、その影響で授業内容が分からなくなり長欠席から課題等未提出、単位未修得が生じることにより志が薄れて思いが退学に傾いてしまいます。2学年の退学者を含む全体的には本校説明会に参加せず出願しているのが複数人おります。学校を理解せず入学した結果、思い違いにより退学に結びついてしまっていることもあります。

幸いにして29年度入学者の募集は現時点、順調であります。したがって30年度に向けましての退学者を減少させる一方法としまして出願資格等の内容を一部変更することにしました。変更点は出願区分における評定平均値を高く定める、出席(欠席)状況で具体的に欠席日数の下限値を定めることにしました。また選考方法に関しては必要に応じて面接を随時実施していくことにしました。

入学者を全員、就職させることが本校の使命であります。専任教員には上記の就職や進路変更が理由の退学者を減少させるため、入学前の学校説明会等の機会に本人の意志を確認し、科目担当の先生方には入学時の建築に対するモチベーションを維持・向上させるための教育指導を継続して実施いただき、また、担任においてはとくに生活指導などご父母とも連携をはかり、退学防止に努めていただくことをお願いします。

(3) 就職活動状況

表-7 過去5年間のクラス別の学校依頼者内定率 (2017/3/31)

学 科	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	100%	9/9	100%	10/10	100%	5/5	88%	7/8	100%	4/4
建築工学科	100%	9/9	100%	10/10	100%	5/5	88%	7/8	100%	4/4

建築デザイン科	100%	18/18	100%	12/12	100%	10/10	94%	17/18	100%	24/24
計	100%	27/27	100%	22/22	100%	15/15	92%	24/26	100%	28/28

表-7は過去5年間の学科別の学校依頼者内定率を示したものです。

本年度の求人倍率(単純に求人件数 / 学校依頼就職希望者)は1人あたり約10.9社(昨年度約9.8社)で前年度と比較して1人あたり約1社増加しました。

(4) 資格取得状況

1. 2級建築施工管理技術検定合格率

全国平均 51.9% (前年 48.5%)

本校全体平均 29.6% (前年 57.1%)

*上記の2級建築施工管理技術検定(学科試験のみ受験)試験は平成28年度において建設業法施行令等改正があり、満17歳以上となる方が受験できるようになりました。

2. 福祉住環境コーディネーター検定試験

3級

本校全体合格率 39.4% (28名合格 / 71名受験) (前年 54.4%)

2級

本校全体合格率 100% (1名合格 / 1名受験) (前年 受験者無し)

3. 建築CAD検定試験

3級

全国平均 76.2% (前年 80.0%)

本校全体 76.9% (10名合格 / 13名受験) (前年 77.8%)

4. MOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)

Word スペシャリスト

全国合格平均率 非公開

本校合格平均率 68.8% (22名合格 / 32名受験) (今年度から受験)

Excel スペシャリスト

全国合格平均率 非公開

本校合格平均率 75.0% (12名合格 / 16名受験) (今年度から受験)

5. 商業施設士補

建築工学科 4名合格

建築デザイン科 3名合格

6. JIS品質管理責任者(JIS規格より講習)

建築工学科 (4年制) 合格率 93.3% (14名合格 / 15名受験) (前年 88.9%)

7. 建築積算士補

建築工学科合格率 80.0% (8名合格 / 10名受験) (前年(両学科)94.1%)

建築デザイン科合格率 92.8% (13名合格 / 14名受験)

(5) 富士訓練センター技能訓練合宿

(職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センターを利用して技能講習終了をめざす)

① 日程 平成28年8月25日~8月31日の6泊7日

② 引率 藤本 陽介、小澤 宏、名島 友基

③ 訓練内容 車両系建設機械(整地・運搬・積込および掘削用)運転技能講習

④ 結果 受講者29名全員(前年度22名)が技能講習終了